

がんばろう 南三陸町

復興第 6 3 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

伊里前商店街が「ハマーレ歌津」として再々スタート!



2017 年 4 月 23 日(日曜日)

多くの地区民が喜びのを胸に
「語らいの場」に集まった。

地元商店の再建と地区住民の再びのにぎわいの期待が込められての、再々スタートとなった 4 月 23 日(日)の式典には「南三陸まちづくり未来」の三浦会長と佐藤町長と設計をした建築家の隈研吾氏など、住民や関係者ら約 400 人が集まった。

オープンの式典会場では、地元商工会青年部・歌津婦人会の皆さんが、つきたての餅をふる舞い、海鮮ちゃんこで来場者への「おもてなし」で、楽しんでもらった。

新しい商店街は長屋式 2 棟の 8 店舗で、南三陸産の地元の木材をふんだんに利用したぬくもりのある、木造店舗とした。被災した伊里前市街地に 5 m のかさ上げで、面積は 782 m²で再建し開店した。

8 店舗は海から見て左側から 1 店目が、技術と信用の電気屋「ナカノ電気商会」、2 店目がおしゃれとギフトでみなさんを元気にと老舗の衣料店「マルエー」があり、こちら側に WC(トイレ)



新店舗の前には祝いの生花が並ぶ



人力車がオープンに花を添える。

うぜ!と「佐藤酒店」の裕さん、テレビにもちょくちょく歌津の紹介などで出演している。

2 棟目は左から 1 店目が、大人気!おつまみバイキングの「丸荒」、2 店目は新しく出店したもう 1 店「心結ぶカフェむすびや」、みなさんの工夫を、待って寄って、みんなで作る楽しい場所として、伊藤さんがコーヒーをどうぞ!と待っている。3 店目が

ファッションとフィッシングで毎日を楽しく!と「まきの衣料・大隆丸」、各店の個性を前面に、住民・来町者・ボランティアの交



ポスト君も来場者を出向かえる。

流の場を演出してくれる。

商店街の「ハマーレ」は、地元弁の「はまれ」の仲間に入りなさいと、「マーレ」はイタリア語で海を意味する、二つの言葉の造語だという。

(テレビ報道より)

歌津の商店街は観光客と地域に暮らす人達と、共にある店を目指していた。伊里前市街地に老舗としてある「マルエー」さんの御主人が、オープンにあたり話していた。震災後は地元を中心に、他から来た人も集まる場所を創りたい!と言う。80 万人の人がこれまでの歌津「伊里前福幸商店街」に来てくれて、これまでの 80 万人の内の 22 万人の方が「マルエーに来てくれた」、地域の皆さんの生活衣料を中心に、欲しい物があると「高級財布」など、お客様の要望に応え営業を続け、新たな出発となった。

高台へ住居を移したお得意さんは、生活の場所が変わり、昔のように世間話しをする人が居なくなったと言う。レジの前に椅子を置き「語らえる場所」とした。以前と変わらぬ商店の経営が、地区の生まれ変わりにつながる事を祈りたい。と話していた。

—— 南三陸町の 2 つの商店街へのアクセス ——

《ハマーレ歌津》

国道 45 号線沿いに商店街があり、駐車場も 3 カ所準備され、店までの距離は直ぐそこにある。地域の人達との交流も楽しみの一つであり、三陸道の終点から 10 分足らずで到着する。8 軒なので全店を廻り、交流を深めて欲しい。旧歌津町被災地「伊里前商店街」の跡地の上に 5 m 嵩上げた場所にあり、歌津の漁港と湾が一望できる。駅裏には歌津地区で亡くなられた人たちの、名前が全て刻まれた「石碑」と、観音様と東屋が建立されている。ここも歌津地区の復興の姿を見られる場所としても、穴場でもある。ハマーレ歌津から気仙沼市までは、約 45 分で行ける。

《さんさん商店街》

LED 電球のツリーのモニュメントが商店街の入り口の目印として設置された。3 月 3 日からの 1 か月間で 16 万人が来場したと言う。28 店舗は飲食店が 6 店舗、御菓子店が 3 店舗、鮮魚店が 3 店舗で、他に衣料品・海苔店・文具・お茶・土産物・新聞店・整骨・理容店 2 軒など、観光客を迎える総ての商店が 4 棟に長屋式の形成で並ぶ。

4 棟の中央に「フードコート」があり、飲食店

の店内や食事を外でとる事ができる。店主に聞くと週末などの休日は混雑が予想され、できれば予約をして行くと良い。しかし、多くの来場者の為に予約も受けにくいと話す。飲食店も通常は夜 9 時だが 10 時までとなっている。

さんさん商店街までは、「志津川インター」からは、5 分位で、「南三陸海岸インター」からも 5 分位で到着できる。しかし、商店街周辺は大渋滞が予想され、時間に余裕を持って来店して欲しい。防災庁舎の見える「慰霊地」は分かりにくい場所にあり、国道 45 号も閉鎖され、国道 398 号と合流している駐車場の裏に慰霊の場所がある。

商店街からは八幡川を見下ろす向かいに、震災遺構「防災庁舎」があり、現在進む河川堤防に隠れた半分の遺構を見ることが出来る。

(62 号の記事のつづき)

さんさん商店街本設オープン



今回出店した飲食店に「しお彩」さんがある。震災前は良く町民が食事や集まりの場として、利用していた。借り店舗ながら南三陸の新鮮食材で、街中に行列

ができるお店で有名だった。新鮮な南三陸の食材で斬新な一品料理に、来客が途切れない店として町民に愛されていた。震災で柱と壁だけになった店舗に、赤字で「がんばろう南三陸。南三陸うまいものあり。しお彩」と書いてあった店舗跡を思い出す。

「さんさん商店街」への出店が出来ないままで、自動車による移動販売を 5 年間以上も続け、今回の「新さんさん商店街」の出店となった。

各店舗が個々の店舗の被災の中で、仮設商店街から本設の志津川地区の商店街として、2017 年 3 月 3 日によみがえった。



明日につながる 希望の架け橋



入学生 70 名に先輩から校歌のエール

平成 29 年度の志津川高校の入学式が 4 月 11 日に開催され、情報ビジネス科 12 名と普通科 58 名を迎え、3 年目となる山内松吾校長(入谷出身)の元で、新しい歴史と伝統が刻まれる。

新入生の名前が一人ひとり呼ばれ、山内校長が「入学を許可する」と告げた。学校長式辞では、「1 万 2 千人を輩出してきた。地域と共に発展した高校です。」と新入生と御父母に報告した。「日々精進」と話し、故郷を愛する人になって欲しいと伝える。「明るく輝いている、未来へ希望の架け橋となって欲しい。」としめくくった。

最後に 2・3 年のスポーツ部の在校生が、入学生に校歌の紹介のエールを贈った。

南三陸町人口の推移 (平成 28 年 12 月現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22 年 3 月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
23 年 3 月	17,064	7,823	2,296	1,884	5,061
28 年 12 月	13,529	5,385	1,573	2,068	4,503
増減数	-4286	-2909	-860	+161	-678
増減率	-24%	-35%	35%	+8.4%	-13%

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成29年(2017年)
～ 地元報道より ～

1月の出来事

南三陸町

- ◆南三陸町「さんさん商店街」で、移転に伴い「5年間ありがとう」と卒業式を12月31日に行った。2012年2月25日のスタートから200万人を集客した。店主一人一人に「証書」が手渡された。
- ◆南三陸町戸倉地区で震災後初めての「新年交流会」が5日開催された。会場は戸倉中学校を改修した戸倉公民館で、戸倉コミュニティー推進協議会が主催した。希望の持てる「古里」へと結束した。
- ◆志津川魚市場のギンザケの水揚げが震災後最高なった。水揚げは5190トンで約18億円となり、数量は減ったが金額が増加した。ギンザケは好調だったものの主力の秋サケやイサダの不漁で数量が前年を3千トン(36%)下回った。
- ◆南三陸消防団は山内完二消防団長の退団により、新団長に高橋一郎副団長(68)＝歌津田の頭に辞令を交付した。
- ◆8日南三陸町の交流ホールで成人式が開催され、152人が出席した。対象者は184人だった。新成人を代表し浅野さん(歌津地区)は、社会に貢献していく事を誓った。
- ◆南三陸町の消防団・交通指導隊の「出初め式」に540人が集まり「無火災」「交通死亡事故ゼロ継続」に向け結集した。
- ◆宮城県教育委員会は、防災教育などの推進で、歌津中学校及川教主幹教諭と気仙沼市内の教諭2人の3人を優秀教員として功績が認められた。
- ◆南三陸署は「正しく110番通報を」と外国人研修生が対応を学んだ。町内には中国・フィリピン・インドネシア・ベトナムから94人の実習生が滞在している。
- ◆「語り部フォーラム」が南三陸ホテル観洋で開催され、全国から300人が参加した。「命守る宣言」も採択され、次世代に震災を伝える方法を語り合った。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

1月の出来事

気仙沼市

- ◇前松岩中学校校長の昨年の「児童買春ポルノ禁止法違反」の疑いによる逮捕にあたり、気仙沼市教育委員会は各校のコンプライアンス強化し、マニュアルを策定した。
- ◇気仙沼市の16年の人口は65,920人となり、年間で800人が減った。2011年2月に比べ「8327人(12%)」が減少した。自然減は600人、出生数は356人、死亡者数はその3倍の975人だった。人口は減っても世帯数が132世帯増加となった。
- 岩手・宮城の沿岸7市町の有志でつくる「三陸海岸を鉄道協議会」は、気仙沼―仙台間の直通列車実現への署名活動を2月から開始する。①大船渡線の気仙沼駅―陸前矢作駅間 ②気仙沼線の柳津駅―陸前戸倉駅間の鉄道復旧、を要望する。
- ◇小泉川のサケ漁は、12月26日現在で捕獲数は1万2340匹(前同期比12%減)、採卵数は移入分を除き1127万64粒(同15%減)だった。
- 気仙沼地域エネルギー開発は、環境保全や活性化に貢献したと、東北経済産業局の本年度東北再生可能エネルギー利活用大賞に選ばれた。大震災後に間伐材を利用した「バイオマス発電」での全量買電し、木材買い取る際は支払いの半額を、市内の180店が加盟する「地域通貨」で支払うなど、地域の活性化も図っている。
- ◇気仙沼市の被災世帯の約260世帯が岩手県に

- ◆南三陸町内の高齢者の介護予防を目的にして開講している「おらほの笑楽校(しょうがっこう)」が10日、志津川東復興団地で開かれた。防犯講話や餅まきなどで楽しいひとときを過ごした。

志津川高校の2017年度入学志願状況で、普通科定員72人に対し53人、情報ビジネス科34人の定員に4人が出願した。気仙沼地域では、向洋高校の産業経済が1・35倍で最高だった。

- ◆南三陸街歌津の寄木浜での伝統行事の「ささよ」が15日の小正月に行われた。小中学校生の減少により、参加者が少なくなっているものの、地域の住民は孫にも引き継いでもらいたいと話す。
- ◆南三陸町フットサル大会が15日歌津中体育館で開催された。中学生から50代まで10チーム80人が参加した。①FC・PAPA+2 ②Vamos
- ◆気仙沼地域薬剤師会加入の薬局が「まちかど相談窓口」の開設から1ヵ月を迎えた。薬剤をはじめ、健康や介護などの相談を一体的に受け付けている。利用は常連が中心ながら、身近な存在をPRしている。

ウジエなどの3店舗が入る「ショッピングモール」が7月の開業に向け、地鎮祭が17日に志津川中央団地の45号線向かいの天王前地区で開催された。オープンにあたり従業員は地元を中心に募集している。

- ◆熊本県南阿蘇村の23人が17日、語り部事業を観光につなげようと、南三陸町を視察した。

南三陸町歌津地区の「NPO法人夢未来南三陸青年部」が「南三陸宝BOOK」を発刊した。町の漁業や農業などの産業・文化・歴史などを後世につたえようと青年部10人が作成した。A5判26Pのフルカラーで、南三陸町の「宝物」を紹介する。

- ◆南三陸町は第17次復興交付金の申請で、6事業24億5千万円と前回の1.8倍の額となった。市街地整備事業など復興事業費として申請した。気仙沼市は約121億円。
- ◆三陸道の志津川ICの開通により、これまで三滝堂までの通行だったものが、登米以北の

避難し生活しているが、その2割が戻らぬ意向を示し、岩手県の災害公営住宅を希望している。◇気仙沼本吉地区の新成人は929人で、気仙沼市の対象者は745人だった。

気仙沼市のふるさと納税が昨年過去最高となった。トータルの件数は6151件と昨年より1693件少ないものの、1人当たりの平均が2万2千円と7000円も増加した。昨年のふるさと納税からのポイント制導入や、返礼品をリニューアルし、リピーターも増となり、総額1億3700万円と増額となった。

- ◇気仙沼市の菅原市長は震災遺構として「旧向洋高校」の全体保全へ方針を転換した。「手つかずの遺構は高い評価」と市長は正式に表明した。
- ◇気仙沼市教育委員会は、介護サービス事業所と連携して、来年度から中学生の介護・福祉の勉強を実施する。
- ◇気仙沼市の「空き家バンク」の募集開始から半年が経過し、「成約ゼロ」で登録も少数となっている。首都圏などからの移住・定住者希望者向けの住居確保策として昨年から取り組んでいる。今後もPRの強化や周知の拡大を検討していく。
- ◇気仙沼市の16年度の「教育旅行」が前年度より3割減少した。受け入れは2600人で、「津波の威力が伝わってない」との声もあり、震災そのままの遺構保存の旧向洋高校の整備に期待がよせられている。
- ◇気仙沼の銭湯「亀の湯」が3月に閉店し、131年の歴史に幕を閉じる。多くの漁船の寄港地にあり、漁船誘致や社交の場としても一役を担ってきた。惜しまれながら3月に閉店する。創立は1886年の老舗の銭湯。
- ◇気仙沼の弁当「黄金龍のハモニカ飯」が17日兵庫県神戸市の「ひょうご安全の日のつどい」で、

開通により、利用者が4～6割増えている。

- ◆南三陸町志津川で混雑の緩和へと「復興拠点連絡道路」の一部が、31日に完成する。

南三陸町の12月末までの人口は1万3529人、世帯数は4586戸で、1年間で277人・世帯数13世帯が減少した。昨年は62人が生まれたが、171人が死亡し、転入351人に対して転出は491人で、自然・社会増減はマイナスだった。地区別では志津川が5385人、歌津4503人、入谷2068人、戸倉1573人。この一年で志津川は215人、戸倉71人、歌津15人の減少。入谷地区は住宅再建が進み24人増加した。

- ◆障害者雇用は気仙沼市は法定の2.2%を上回ったが、南三陸町は2人不足で達成とはならなかった。

JR東日本の春の臨時列車のダイヤが発表され、「ポケモントレイン気仙沼号」を気仙沼～一関間で運行する。

- ◆新さんさん商店街の入居者に24日、建物部分の工事完成にともない施施工業者に鍵が引き渡された。3月3日のオープンに向け、入居者の内装工事がいよいよスタートする。
- ◆入谷小学校で南極観測隊員の井熊英治さん(47)による、「南極教室」の出前授業が4～6年生38人が参加し講話を聞いた。
- ◆宮城県が市町村の職員給与水準(ラスパイレス指数)を公表した。それによると南三陸町は22町で13番目となった。町村平均は93.6となり、町は1.6ポイント上がり95.2となった。気仙沼市は仙台市を除き、12市で8番目の94.3で、8番目となった。ラスパイレス指数100は国家公務員を基準にしている。
- ◆三陸ジオパークの世界認定へ、2月1・2日の両日「三陸ジオパークフォーラム」を開催し、エクスカーション(現地見学研修)が行なわれ見識を広める。
- ◆三陸道の「南三陸海岸インター(仮称)」が、3月20日の供用を決定した。
- ◆気仙沼管内では1週間で5.5倍に、インフルエンザ患者急増。空気乾燥・冬休み終了が要因か? 27日志津川中学校で学校閉鎖。

1200食限定で販売され好評だった。東日本大震災前にJR気仙沼駅で弁当業者が販売していた。メカジキのハモニカを使った弁当が今回復活した。

気仙沼市の市税収納が震災後の前年の最高を上回り、約54億5200万円となった。住宅再建や所得向上などがその背景にある。

◇気仙沼観光コンベンション協会の市観光案内の利用者が、16年は2割の減少となった。ボランティアの減少とネットでの情報収集など、スマホの復旧が背景にあるとみている。

気仙沼の「三陸新報」の『復刊70周年記念』の新春懇談会が20日開催され、気仙沼・南三陸両市町から経済・水産関係者220人が出席し、地域とこれからもと、菅原市長と最知副町長に寄付金の目録が手渡された。

- ◇気仙沼向洋高校の産業経済科の2年生が、地元の菓子店とコラボして、酒かすを使ったスイーツ「ラスク」「大福」を完成した。いずれも産業まつりや文化祭で発表する。
- ◇気仙沼市の防潮堤はフラップゲート30カ所で、19年度完了を目指し整備が本格化(川原漁協周辺で整備を予定)。
- ◇気仙沼市本郷の佐々木小児科医院長の佐々木文秀さん(75)が、「医療功労賞」を受賞した。今後も地域と向き合っていきたいと話す。
- ◇気仙沼市本吉町で農業未経験者の女性6人グループが「気仙沼ウーバー」の活動を本格化させ、農業の活性化へ一役をになう。トマトや春告げやさい栽培をするなど、子育て世代が働きやすい環境づくりにも力を入れる。
- ◇大谷沖の刺し網に人の骨が掛かった。東北大学大学院分院で司法解剖し、死後1年以上が経過していると推定された(24日)。